

メッセージアウトライン 創世記9:1～7「いのちである血」

[1-2] 「神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。『生めよ。増えよ。地に満ちよ。あなたがたへの恐れとおののきが、地のすべての獣、空のすべての鳥、地面を動くすべてのもの、海のすべての魚に起こる。あなたがたの手に、これらは委ねられたのだ。』」

大洪水によるさばきの後、神は再びノアとその家族を、1:28節と同じことばで祝福された。神の人類への態度が基本的に変わっていないことがアダムの子孫であるノアたちに示されたのである。しかし、変わっているところはすべての人間はアダムの墮落による罪の性質を受け継いでいるということであり、すべての人間は神との正しい関係にとどまり続けることが必要であり、それを無にし、神のみこころからそれ、墮落していくならば、当然、責任を問われることとなる。

人への恐れとおののきがすべての獣、鳥、地面を動くすべてのもの、すべての海の魚に起こる。

これは思いのままにこれらの被造物をあつかう自由が人に委ねられたということであり、その支配が力によるものであるがゆえの恐れとおののきと思われる。

[3-4] 「生きて動いているものはみな、あなたがたの食物となる。緑の草と同じように、そのすべてのものを、今、あなたがたに与える。ただし肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない」

1:29~30では、人やすべてのいのちのある動物たちの食物は植物であると神は仰せられたが、ここでは肉食の承認をされている。この理由は明らかではないが、おそらくこれから始まる新しい世界での厳しい環境に対応するためにタンパク質などが人に必要であったからと思われる。しかし、この許可にも制限があった。それは、肉はそのいのちである血のあるままで食べてはならないというものであった。血は酸素や様々な栄養素を体全体に運び、肉体や生命を維持する重要な機能を持っており、血がいのちであるとの表現はレビ記でもたびたびなされている。→レビ17:10~14 血は人や動物を生かすいのちの原理として尊重されるべきものであり、それゆえそれを食べてはならないと神は制限されたのである。

[5-7] 「わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の値を要求する。いかなる獣にも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。人の血を流す者は、人によって血を流される。神は人を神のかたちとして造ったからである。あなたがたは生めよ。増えよ。地に群がり、地に増えよ。』」

ここでは「人の血を流す」とは殺人を意味する。人のいのちは何よりも尊重されなければならない。獣も人も、人を殺してなお生きることが教えられている。獣が人を殺した場合、その獣は必ず殺されなければならない。→出エジプト21:28 また人が他の人を故意に殺したならば、それが兄弟であっても、同様にそのいのちが要求される。人は神によってその鼻にいのちの息を吹き込まれ、神のかたちとして造られ、永遠に続く霊を持った存在であり、獣も人も人を殺すことは許されないことであった。しかし、このことは人を殺した者に対して個人的復讐の殺人を許すという意味ではなく、神のさばきが人間の手を通して行われなければならないということであり、人の悪に対しては人間社会の秩序を守るための正しい権力の行使が必要であるということである。しかし、このことは殺人罪に対する処罰

は死刑以外にはありえないということではない。特に神のさばきは、真の悔い改めによって和らげられるものである。ダビデは人妻バテ・シェバと姦淫の罪を犯し、その夫ウリヤを殺した。→Ⅱサムエル11章 しかし、彼は神の前に真に悔い改めることによって赦された。→Ⅱサムエル12:13、詩篇51編。彼はその罪の結果として大きな苦しみも受けなければならなかったが、最後には齢も富も誉も満ち足りて死んだ。→Ⅰ歴代誌29:28

5~6節で神は安全な社会生活のために、人として守るべき基本的なことを教えられた。その上で7節では「あなたがたは生めよ。増えよ。地に群がり、地に増えよ」と神の祝福のもとで地に増え広がることが求められている。これは1節の「地に満ちよ」と7節の「地に増えよ」と若干のことばの違いがあるが、同じ内容の表現が繰り返されて強調されているところである。

アダムの墮落以来「人の心が思い図ることは、幼いときから悪である」(8:21)人間に、なお地に増え広がることが命じられていることは、ノアから始まる新しい時代への神の恵みによる干渉が加えられることを意味し、それは具体的には人への契約関係の提供となって現れることとなる。

それはやがてノアの子孫であるアブラハムとその子孫であるイスラエル民族の歴史を通して実現することとなり、それはやがて来たるべき救い主イエス・キリストへと続いていくのである。

→マタイ1:1~16、ヨハネ1:11~12,3:16、ローマ3:23~24